中継輸送 納車式第二弾

萬運輸 トラックの重要性PR

【神奈川】萬運輸（東海林憲彦社長、横浜市鶴見区）は2月26日、相模原―仙台の中継輸送に使用する大型車の納車式第2弾を行った。荷台に神奈川県トラック協会（吉田修一会長）のPR・ノベルティーに使われているデザインを描き、トラック輸送の重要性をアピール。3日に納車された同型の「ハーフ&ハーフ」トラックと併せ、中継輸送のシンボルとする。

荷台に「国内輸送の9割を担っているトラック輸送」「物流の未来」「ライフライン」などのメッセージが描かれたデザインを採用。ボディーの片側は萬運輸のブルーを基調とし、反対側は仙台配送（尾上寿昭社長、仙台市宮城野区）のコーポレートカラーのグリーンと塗り分けた。

車両は、中継輸送で既に運行を始めているトラックと性能をそろえた。衝突被害軽減ブレーキや車線逸脱防止機能など、最新の安全装備を搭載。更に、勾配のある道路など運行ルートを、自動で5千通り記録できる機能を備え、車両乗り換え方式の運行の安全性向上に役立てる。

両社による中継輸送は22日から開始。26日の納車式後に、中継輸送に使用するトラックを全て、新型車に切り替えた。これまで行った実証実験で、東京―浜松の中継輸送の拠点に使ったサービスエリアやトラックステーションは、夜に混み合うことが分かった。こうした経験を生かし、合流・乗り換えを朝早い時間に行うなど、スムーズな中継輸送を構築していく。

（菊地将矢）

中継輸送車両と、笑顔で手を振る萬運輸の幹部ら